令和元年６～７月の文書館月替展示について
「音をつづる」

１　展　示　概　要

生まれて、空気を伝わって耳に届く、消えてゆく「音」。

人は、録音機器のない時代から「音」を文字に落としこみ、記録してきました。新生活のはじまりを告げる「チヤンチヤンチヤンチヤン」、山谷に銃砲声がこだまする「ゴウゴウ」、天地も砕く「ガラガラ」、あの松平春嶽７歳の「ドキドキ」……

あの時代が、あの場面が、あの瞬間が、資料から臨場感たっぷりによみがえります。

２　期　　間　　令和元年６月 28 日(金)～８月 21 日(水)　　文書館閲覧室

３　主な展示資料

音	資料	内　容／記録者
さみしうれしい保養所生活 **チヤンチヤンチヤンチヤン** （夏期児童保養所の朝）	1928 年（昭和 3）８月１日～31 日 「休暇日記」 藤野厳九郎家文書（当館寄託） C0125-00084	小学校４年生の夏。恒弥は一人、芦原の家族から遠く離れて敦賀の夏期児童保養所に。 ８月２日（木）晴、保養所で迎える初めての朝。起床の鐘にとび起きる。 ツネヤ（恒弥、藤野厳九郎長男）
秋の大空、山谷の砲兵戦 **ゴゥゴゥ** （日中戦争武漢作戦）	1938 年（昭和 13）７月３日～11 月 19 日 「（山砲兵分隊滝本孝之陣中日記）」 滝本嘉博家文書（当館蔵） J0127-00003	10 月 18 日、敵は退却したか、銃の音が聞こえない。畠で露営、寒気身にしみ眠れない。19 日、寒さで目がさめる。「伍家」に到着。敵陣地あり、銃砲弾飛来。20 日、後方に友軍重砲隊が到着したか、払暁から銃砲声が物凄い。 滝本孝之（第９師団分隊長、大野郡野向村出身）
家が、電柱が、倒れる **ガラガラ** （福井地震が発生）	1948 年（昭和 23）６月 20 日～1949 年３月 23 日 「（福井地震体験日記）」 岩井正文書（当館蔵） A0193-00001	６月 28 日、晴、出勤 ５時（サマータイム）、終業。 早く家へ帰らうと思つて用意をしやうと思ひ、店を一歩出た時……
春嶽も能を舞う前は **ドキドキ** （舞台で能を披露）	（年月日未詳） 「正二位慶永公御著述真雪草紙」（写） 松平文庫（県立図書館保管） A1043-21554	田安家恒例の三月に一度の能観劇の日。 錦之丞（春嶽、当時７歳）・群之助（田安慶頼、同）兄弟は、父斉匡の仰せにより、当日急遽、舞台で演目「高砂」を披露することに。 松平春嶽／鈴木準道（書写）

４　ワークショップ　　「音をえがく」　　７月 12 日（金）～８月 21 日（水））（予定）

いちばん記憶に残っている「音」を思い出して、その場面を「音」を、絵に描こう。

※閲覧室の一角にコーナーを設けて体験の機会を提供する（申込不要、時間指定・時間制限なし）。

５（１）関連ミニ展示　　「歴史的公文書ヒストリアー音を楽しむ『県立音楽堂』　その誕生の記録ー」

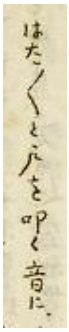
（２）関連イベント　　「Night Archives」（演奏会と展示説明会）

資料例

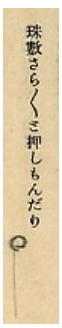
チヤンチヤンチヤンチヤン
１９２８年（昭和３）８月２日
「休暇日記」
藤野厳九郎家文書（当館寄託）

ゴウゴウ
１９３８年（昭和１３）１０月２０日
「（山砲兵分隊滝本孝之陣中日記）」
滝本嘉博家文書（当館蔵）

ガラガラ
１９４８年（昭和２３）６月２８日
「（福井地震体験日記）」
岩井正文書（当館蔵）



はたはた
１９１７年（大正６）４月２３日
「大正六年福井県師範学校本科女子部第４学年生修学旅行日誌」
伊藤三郎左衛門家文書（当館蔵）



さらさら
（年未詳）
「歌舞劇安宅一幕（脚本）」
高田富文書（当館蔵）